## 2023年度第3学年授業要覧



# 東京歯科大学短期大学歯科衛生学科 Tokyo Dental Junior College Department of Dental Hygiene

番号 \_\_\_\_ 氏名 \_\_\_

教科の特徴は以下のディプロマ・ポリシーに沿って記載されています。

### 東京歯科大学短期大学ディプロマ・ポリシー(卒業又は修了の認定に関する方針)

- 1. 歯科衛生士として歯科疾患の予防及び口腔衛生の向上を図ることを通じて、個人の健康を増進させ、人々の健康づくりを支援できる能力をもつ人材
- 2. 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材
- 3. 医療、介護の総合的な確保が地域包括ケアシステムにおいて推進される中で、専門職と して多職種と協働して歯科保健医療が提供できる人材
- 4. 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の種々な場に対応できる人材

#### 科目名: キャリアデザイン

#### 担当教員 菅野 亜紀

1. 教科の特徴

女性の社会進出とともに働き方改革が進み、就業の選択肢が増えている現代において、 ライフスタイルに合わせた歯科衛生士の働き方を考える上で必要な教養と自己開発能力 を身につけるための基礎知識を修得することを目的とした教科である。 (ディプロマポリシー 4)

#### ナンバリング 【B0516-3A】

2. 一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

歯科衛生士として、将来への目的意識を明確にして職業観をみにつけるために、キャリアデザインについての知識を学修する。

- 3. 行動目標 (SBOs: Specific Behavioral Objectives)
  - 1) キャリアの概念を理解し、主体的に考えることの重要性を説明できる。(10%)
  - 2) 自分自身をみつめ分析する方法を説明できる。 (30%)
  - 3) キャリアデザインするうえで直面する課題および促進するための力や資源について説明できる。 (50%)
  - 4) 問題発見と解決による自己研鑽の必要性を説明できる。(10%)
- 4. 方略 (LS:Learning Strategy)
  - 受動的方法:

講義

2) 能動的方法:

レポート、ディスカッション

3) 媒体:

スライド、プリント(学習に必要な資料を適宜作成して配布する)

- 5. 評価 (EV: Evaluation)
  - 1) 形成的評価:各回の課題に対するレポートを評価する
  - 2) 総括的評価:試験

①定期試験は、講義内容の理解度を空欄補充、真偽選択、論述等の記述試験で評価する (90%)

②平常点評価

日常的な授業中の態度、課題の提出状況や内容などを評価する。(10%)

- 6. 事前学修・事後学修
  - 1) 事前学修

第1回目は特になし。第2回目以降は、前回の学習内容を見直す。(15分)

事後学修

毎回出される課題に取り組み、当日の重要なポイントをリストアップする(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前:第1回目は特になし。以降は、前回の授業内容に関するディスカッションで確認する。

事後:各回の課題に対するレポートで確認する。

#### 7. 教科書

特になし	

#### 8. 参考図書

山﨑京子、平林正樹 未来を拓く	キャリア・デザイン講座	㈱中央経済社
-----------------	-------------	--------

#### 9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

#### 10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または 終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅 延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目(SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/13	木	2	<b>授業ガイダンス 総説 キャリアデザインとは</b> ・外的キャリアを説明する ・内的キャリアを説明する	講義	14 階 教 室	菅野
2	4/20	木	1	1 自己分析① ・自身の職業興味を知る ・ライフラインチャートから自身の内的キャ リアを考察する	講義	14 階 教 室	菅野
3	4/27	木	2	キャリア形成に必要な自己管理① :女性特有の心身の変化とその対応 (産婦人科医師による講義) 人々の健康に携わる医療従事者として健康で働き続けるためにセルフケアについて説明する。	講義	14 階 教 室	普
4	5/11	木	2	2 「働く」を考える ・作業と仕事の違いを説明する ・「働く」とは何かを考察する 3 組織における人事評価 ・組織における人事評価の意味を考察する ・目標管理シートを作成する ・社会人力を考察する	講義	14 階 教 室	普
5	5/18	木	2	4 エントリーシートの作成 ・自身のアピールポイントを考察する ・自身のアピールポイントを書面化する ・履歴書の作成、送付方法を説明する	演習	14 階 教 室	菅野
6	5/25	木	2	5 <b>就職活動について</b> ・事前連絡の方法 ・面接試験 ・小論文試験	講義	14 階 教 室	菅野
7	6/1	木	1	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義) ~訪問歯科で活躍する歯科衛生士	講義	14 階 教 室	菅野
8	6/1	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ (ゲストスピーカーによる講義) ~行政で活躍する歯科衛生士	講義	14 階 教 室	菅野

9	6/8	木	1	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ	講義	14	菅野
				(ゲストスピーカーによる講義)		階	
						教	
				~企業で活躍する歯科衛生士 ①		室	
10	6/8	木	2	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ	講義	14	菅野
				(ゲストスピーカーによる讃義)		階	
						教	
				~総合病院で活躍する歯科衛生士 ①		室	
11	6/29		1	<b>中華生が体生しのと、17マボルムと此か</b>	講義	14	菅野
11	6/29	木	1	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ	再我	14   階	官對
				(ゲストスピーカーによる講義)		教	
				│ │~企業で活躍する歯科衛生士 ②		教	
10	0/00		-		244-345		-t-t- mrz
12	6/29	木	2	<b>先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ</b>	講義	14 階	菅野
				(ゲストスピーカーによる講義)		教	
				おりに呼ぶに囲うとおり体とし		教	
	=100		_	~歯科医院で活躍する歯科衛生士	244-345		-t-t-m-z
13	7/20	木	1	先輩歯科衛生士のキャリア形成から学ぶ	講義	14	菅野
				(ゲストスピーカーによる講義)		階 *//	
				<b>公人中時一て用してより作しし</b>		教	
				〜総合病院で活躍する歯科衛生士 ②		室	
14	7/20	木	2	キャリア形成に必要な自己管理②	講義	14	菅野
				:眼の加齢変化とその対応		階	
				(眼科医師による講義)		教	
				人々の健康に携わる医療従事者として健康で		室	
				働き続けるためにセルフケアについて説明す			
				る。			
15	9/7	木	2	総括	講義	14	菅野
						階	
				これまでの授業内容のまとめ		教	
				課題提示		室	

#### 科 目 名:演習Ⅲ(地域歯科衛生)

担当教員:※多田美穂子 ※永井由美子 ※岩澤菜々恵 ※(実務経験教員による授業科目)

1. 教科の特徴

2 年次の「地域歯科衛生学」で学修した知識をもとに、地域における人々の健康づくりに必要な技術を身につけ、生涯にわたる発展的学修につなげるために、演習を通じて、地域歯科保健活動のアセスメント、計画立案、実施、評価、対象別の歯科保健教育方法などの展開方法を修得する。さらに他職種との共通点や相違点を理解しながら、相互連携の必要性についての理解を深める。(ディプロマポリシー 1)

#### ナンバリング 【B0607-3A】

2. 一般目標 (GIO:General Instructional Objective)

地域で活用する歯科衛生士の役割を理解するために、地域歯科保健活動における健康教育の基礎的知識・技能・態度を修得する。

- 3. 行動目標 (SBOs:Specific Behavioral Objectives)
  - 1)健康教育の概要を説明できる。(5%)
  - 2) 健康教育の進め方を説明できる。(10%)
  - 3) 地域歯科保健活動の考え方や方法を説明できる(10%)
  - 4) 地域歯科保健活動のフィールドを説明できる。(25%) ①保育所・幼稚園 ②学校(小学校・中学校・高等学校)③事業所 ④保健所・市町村保健センター ⑤地域・病院・施設
  - 5) 地域歯科保健活動の演習を実施できる(10%)
  - 6) 高等学校における健康教育の教案を作成できる。(10%)
  - 7) 高等学校における健康教育を実践できる。(15%)
  - 8) 高等学校における健康教育のための媒体を作成できる。(10%)
  - 9) 高等学校における健康教育実施後の評価ができる。(5%)
- 4. 方略 (LS: Learning Strategy)
  - 1) 受動的方法: 講義
  - 2) 能動的方法: ディスカッション、演習
  - 3) 媒体: 教科書 参考図書 PowerPoint メール
- 5. 評価 (EV: Evaluation)
- (1)形成的評価:態度評価(グループワーク実施状況、提出物期限厳守) 提出物はメールを利用する。
- (2)総括的評価: 演習、実習におけるフィードバック時のディスカッションへの対応を

平常点として評価 (15%) 演習課題のレポート (15%)

講義の振り返りレポート課題(30%)

科目試験 記述式、多肢選択式による出題を行い、評価(40%)

- 6. 事前学修·事後学修
  - 1) 事前学修(各15分)第1~15回 各回の内容項目に記載してある教科書ページを読んでおくこと。
  - 2) 事後学修(各15~20分)第1~15回

講義内容を確認し、重要なポイントを教科書や講義ノートで確認すること。 提出物は、フィードバック受けた内容を検討の上、再提出すること。

3) 事前学修・事後学修の評価 第1~15回 講義内の演習課題の提出で評価(形成的評価)を行う。 フォードバックは口頭かコメントで行い、再提出物でも評価を行う。

#### 7. 教科書

一般社団法人	最新歯科衛生士教本	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会	歯科予防処置論・歯科保健指導論	
監修	第2版	
一般社団法人	最新歯科衛生士教本	医歯薬出版
全国歯科衛生士教育協議会	歯・口腔の健康と予防にかかわる	
監修	人間と社会のしくみ1	
	保健生態学 第3版	

#### 8. 参考図書

学校保健会	「生きる力」を育む 学校での歯・ 口の健康づくり 令和元年改訂版	文部科学省
公益財団法人日本学校保健 会	学校歯科保健実践例集	公益財団法人 日本学校保健 会

9. オフィスアワー

平日 18 時まで

#### 10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または 終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅 延証明書等)を提出すること。

回数	月日	曜日	時限	内容項目(SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/13	木	1	歯科予防処置論・歯科保健指導論 P396~ 1章 地域歯科保健活動における健康教育 健康教育の概要、進め方、方法、評価 ①保健所・市町村保健センター	演習	14 階 教 室	永井 多田
2	4/20	木	2	歯科予防処置論・歯科保健指導論 P396~ 地域歯科保健活動のフィールド ②保育所・幼稚園 ②学校(小学校・中学校・高等学校) 学習指導案について 演習デモ	演習	14 階 教 室	多田永井
3	4/27	木	1	歯科予防処置論・歯科保健指導論 P396~ 地域歯科保健活動のフィールド ④事業所 ⑤地域・病院・施設 演習 1	講義	14 階 教 室	多田永井
4	5/11	木	1	歯科予防処置論・歯科保健指導論 P396~ 地域歯科保健活動のフィールド 演習 2	講義	14 階 教 室	多田永井
5	5/18	木	1	保健生態学 Ⅲ編 P216~ 地域保健活動の進め方 まとめ	講義	14 階 教 室	永井 多田
6	5/25	木	1	健康教育(高等学校) 高等学校における健康教育(総説) 対象者の情報収集・分析 健康教育のポイント	講義演習	14 階 教 室	多田
7	6/15	木	1	健康教育(高等学校) 学習指導案作成 ① (グループの教案作成)	講義 演習 (PBL )	14 階 教 室	多井岩澤
8	6/15	木	2	健康教育(高等学校) 学習指導案作成 ② (グループの教案作成)	演習	14 階 教 室	多田 永井 岩澤
9	6 /22	木	1	健康教育(高等学校) 原稿、媒体作成 ①	演習	14 階 教 室	多田 永井 岩澤

10	6/22	木	2	健康教育(高等学校) 原稿、媒体作成 ②	演習	14 階 教 室	多田井澤
11	7/6	木	1	健康教育(高等学校) 臨地実習のための予演会 ① 原稿、媒体の修正	演習	14 階 教 室	多田 永井 岩澤
12	7/6	木	2	健康教育(高等学校) 臨地実習のための予演会 ② 原稿、媒体の修正	演習	14 階 教 室	多田 永井 岩澤
13	7/6	木	3	健康教育(高等学校) 臨地実習のための予演会 ③ 原稿、媒体の修正	演習	14 階 教 室	多田永井岩澤
14	7/13	木	3	健康教育(高等学校) 7/13 臨地実習のまとめ・評価 報告会	演習	14 階 教 室	多田 永井 岩澤
15	9/7	木	1	科目試験		14 階 教 室	多田 永井 岩澤

#### 科目名: 卒業研究

担当教員: ※安松 啓子、※鳥山 佳則、※杉戸 博記、※片田 英憲、※菅野 亜紀、 ※多田 美穂子、※永井 由美子、※中田 悠、※江口 貴子、※高倉枝里子、 ※有友たかね、※岩澤菜々恵 ※(実務経験教員による長業科目)

#### 1. 教科の特徴

学んできた歯科衛生学をもとに自分自身でテーマを設定し、客観的事実や論理的推論を通じて、問題解決力を養う。本学のディプロマポリシーの2. 高齢社会の進展に伴い必要とされる歯科医療の変化を把握し対応できる人材、4. 教養と自己開発能力を有する自律性を持ち、地域社会の種々な場に対応できる人材となるための教科である。

#### ナンバリング 【B0802-3C】

2. 一般目標 (GIO: General Instructional Objective)

研究遂行に必要な基礎的知識を習得し、研究論文を完成させることを通じて、将来、歯科衛生士として、そして一社会人として自ら考え、行動する能力を養う。

- 3. 行動目標 (SBOs: Specific Behavioral Objectives)
  - 1)研究の進め方および概要が説明できる。(5%)
  - 2) 日常臨床の中でテーマを見いだし研究課題が設定できる。(5%)
  - 3) 研究倫理について説明できる。(5%)
  - 4) 研究課題に関連する資料・文献の収集ができる。(20%)
  - 5) 研究計画の立案と研究方法の選択ができる。(5%)
  - 6) 研究データの収集と分析ができる。 (20%)
  - 7) 研究成果を論理的に記述できる。(30%)
  - 8) 研究成果をわかりやすく発表できる。(10%)
- 4. 方略 (LS: Learning Strategy)
  - 1)受動的方法:

講義

2) 能動的方法:

演習、ディスカッション

3) 媒体:

スライド、パソコン (文献検索、論文作成)

- 5. 評価 (EV: Evaluation)
  - 1)形成的評価:

レポート・研究計画書・観察記録(30%)、卒業研究発表(10%)

2) 総括的評価:

卒業研究論文(途中提出10%+最終提出50%、計60%)

- 6. 事前学修·事後学修
  - 1) 事前学修

第1-17 回: 現時点までの研究実施内容の確認、教員との打合せやプレゼンの確認。 第18回: 質疑内容の整理

#### 2) 事後学修

第1-17回:解決した疑問点の記録、作成中のファイルや論文の作成など。 第18回:質疑応答の記録

3) 事前学修・事後学修の評価

レポート・研究計画書・観察記録

#### 7. 教科書

指定しない

#### 8. 参考図書

文部科学大臣決定	研究機関における公的研究費の管	文部科学省
	理・監査のガイドライン(令和 3 年	
	2月1日改正)	
文部科学大臣決定	研究活動における不正行為の対応等	文部科学省
	に関するガイドライン(平成 26 年 8	
	月 26 日)	
	人を対象とする医学系研究に関する	文部科学省、
	倫理指針(令和4年6月6日)	厚生労働省
	東京歯科大学における公的研究費の	東京歯科大学
	管理・監査実施基準	
日本歯科衛生学会 監修	歯科衛生研究の進め方 論文の書き	医歯薬出版
	方第3版	
眞木吉信 監著	歯科衛生士教育サブテキスト	クインテッセ
	卒業研究 HAND BOOK	ンス出版

#### 9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

#### 10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または 終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅 延証明書等)を提出すること。

#### 【3年前期】

[34	F前期】						
回数	月日	曜日	時限	内容項目(SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
1	4/13	木	3	オリエンテーション 卒業研究論文の書き方 進捗状況の確認・1 次締切について	講義演習	14 階 教 室	安松
2	4/20	木	3	研究	演習	14 階 教 室	指導 教員
3	4/27	木	3	研究	演習	14 階 教 室	指導 教員
4	5/11	木	3	研究	演習	14 階 教 室	指導 教員
5	5/18	木	3	研究	演習	14 階 教 室	指導 教員
6	5/25	木	3	研究	演習	14 階 教 室	指導 教員
7	6/1	木	3	卒業研究論文書式等確認	講義演習	14 階 教 室	安松
8	6/8	木	3	研究発表手順の説明 プレゼンテーション作成法 論文提出2次締切について	講義演習	14 階 教 室	安松

回数	月日	曜日	時限	内容項目(SBOs など)	方略 (LS)	場所	担当者
9	9/7	木	3	卒業論文 最終提出完了・論文集制作	講義	14	安松
10			4	プレゼンテーション作成	演習	階	指導
						教	教員
				発表セクションごとに役割決め		室	
11	9/20	水	1	予演会	演習	14	指導
~			2	プレゼンテーション修正・提出		階	教員
13			3			教	
						室	
14	9/21	木	1	設営・試写	演習	発	指導
~			2			表	教員
16			3			会	
						場	
17	9/22	金	1	発表会	演習	発	指導
~			2			表	教員
20			3			会	
			4			場	
21	9/25	月	1	質疑応答集作成	講義	14	安松
				研究協力者への挨拶等	演習	階	
						教	
						室	

#### 科目名: 総合演習

担当教員: ※鳥山 佳則、※片田 英憲、※菅野 亜紀、※安松 啓子、※杉戸 博記、※永井由美子、※多田美穂子、※中田 悠、各科目担当講師

1. 教科の特徴

これまでに学修してきた基礎科目、臨床科目を整理して歯科衛生士に必要な知識の 総仕上げを行う科目である。

(ディプロマ・ポリシー1、2、3)

#### ナンバリング 【B0901-3C】

2. 一般目標 (GIO:General Instructional Objective)

適切な歯科医療の実践が行えるようになるために必要とされる学修してきた知識・ 技能を総合的に復習し、確実な問題解決能力の定着させる。

行動目標 (SBOs:Specific Behavioral Objectives)
 各講義科目のシラバスを参照。

4. 方略(LS: Learning Strategy)

1)受動的方法: 講義

2) 能動的方法: グループ学習

3)媒体:教科書、問題集、参考図書、GoogleForms

- 5. 評価 (Evaluation)
  - 1)形成的評価:

別に定める各時期における模擬試験等を活用したフィードック

2) 総括的評価:

別に定める学年末に実施する総合学力試験(卒業試験)

- 6. 事前学修·事後学修
  - 1) 事前学修

前期:第1回は特になし。オリエンテーションの内容を把握すること。 第2回以降、各科目の授業ノートを見直しておく(10分)。

後期:各科目の授業ノートを見直しておく(10分)。

2) 事後学修

各授業で解いた問題や模擬試験の結果等より、苦手な領域は問題集の該当部分を解答後、解説をもとに問題を見直し、理解不足の部分を各自のまとめノートに追記する。(20分)。

3) 事前学修・事後学修の評価 授業終了後、授業で配布される問題や問題集を解答して評価する。

7. 教科書及び問題集

粉科書:

秋川 目 .	
各科目指定のもの	

#### 問題集

THE SECOND		
全国歯科衛生士教育協	歯科衛生士のための主要3科プラス専門	口腔保健協会
議会編	分野問題集第4版	
歯科衛生士国家試験問	2023年度版徹底分析年度別歯科衛生士国	医歯薬出版
題研究会編	家試験問題集	

#### 8. 参考書(問題集)

•	> 1 = (1-1/C2/K)		
	歯科衛生士国家試験対	ポイントチェック歯科衛生士国家試験	医歯薬出版
	策検討会編	対策1~5	
	DHS 歯科衛生士部	国試の麗人Ⅱ 直前まとめ編	DHS 歯科衛生
			士部
	歯科衛生士国家試験問	徹底攻略科目別歯科衛生士国家試験過去	医歯薬出版
	題研究会編	問題集基礎科目編	
	歯科衛生士国家試験問	徹底攻略科目別歯科衛生士国家試験過去	医歯薬出版
	題研究会編	問題集臨床科目編	
	歯科衛生士国家試験問	歯科衛生士国家試験予想問題集	医歯薬出版
	題研究会編		

#### 9. オフィスアワー

講義実施日の講義終了後から 18 時

#### 10. 出席について

原則として、授業の開始から 20 分経過までを遅刻とし、それ以降からの出席または 終了予定時刻から 20 分以上前に早退した場合には、欠席扱いとする。

ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅 延証明書等)を提出すること。

◎講義の実施目時については、学内掲示を確認すること

#### ◎以下の各期すべてで8割以上の出席を求める

前期 4月から7月まで

後期 I 11月から第1回卒業試験直前の講義まで

後期Ⅱ 第1回卒業試験直後の講義から第2回卒業試験直前の講義まで

後期Ⅲ 第2回卒業試験直後の講義から第3回卒業試験直前の講義まで

後期IV 第3回卒業試験直後の講義以降

#### 科 目 名: 臨床・臨地実習Ⅱ

<u>担当教員: ※菅野 亜紀、※永井 由美子、※多田 美穂子、※中田 悠、※江口 貴子、</u> ※有友たかね、※上島 文江、※高倉 枝理子、※岩澤菜々恵

#### 1. 教科の特徴

この教科は、実際の歯科診療の場および病棟、高齢者施設など医療・介護の現場において、これまで座学で学んだ知識を臨床に結び付けて実践的に学修するという点が他教科にはない最大の特徴である。口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる実践的な知識、技能、態度を修得することを目的としている。さらに、さまざまな職種や患者と接することで、コミュニケーション能力の基盤を修得する教科である。

(ディプロマポリシー 1・2・3・4)

#### ナンバリング 【B0702-3A】

2. 一般目標 (GIO: General Instructional Objective) 口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる 実践的な知識、技能、態度を修得する。

- 3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)
  - 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける。(10%)
  - 2) 各実習先における歯科衛生士の役割を説明する。(10%)
  - 3) 多職種と協働する能力を身につける。(10%)
  - 4) 対象者の問題点を総合的に考察する (20%)
  - 5) 各歯科診療の補助・介助を実践する。(30%)
  - 6) 患者やその家族とコニュニケーションを図る。(10%)
  - 7) 自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。(10%) ※ 各実習先の行動目標の詳細については、臨床実習必携に記載する。
- 4. 方略 (LS: Learning Strategy)

班ごとにローテーションする。

※ ローテーションの詳細については、実習前のガイダンスで説明する。

1) 受動的方法: 該当なし

2) 能動的方法: 臨床実習、ディスカッション

3)媒体:患者、利用者

- 5. 評価 (EV: Evaluation)
  - 1) 形成的評価:

実習態度の観察記録 (20%)

2) 総括的評価:

口頭試問、実技試験、レポート、客観試験等で評価される。(80%) \*各実習先の具体的な評価方法はガイダンスで確認すること。

#### 6. 事前学修·事後学修

実習前のガイダンスには必ず出席すること。ガイダンス時に実習の注意点や把握しておくべき事項の詳細が説明されるため、把握しておくこと。

1) 事前学修

毎回:登院する各実習先の臨床実習必携を確認の上、実習前にその日の目標を立て て準備する。(15分)

2) 事後学修

毎回:実習内容を振り返り、事前に立てた目標がどの程度達成できたかを客観的に 評価し、改善点を考察する。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修・事後学修:日々の実習記録の記載内容および最終日に記載する「科のまとめ」から評価する。

#### 7. 教科書

特になし		
------	--	--

これまで購入した教科書を各診療科別に活用する

#### 8. 参考図書

特になし	

#### 9. オフィスアワー

\*各実習先で異なるためガイダンスで確認すること。

#### 10. 出席について

- ・遅刻・早退は原則としてそれぞれ1回につき欠席0.5回と計算する。
- ・遅刻・早退となった当日の実習時間の3分の1以上が未履修の場合は、欠席とする。
- ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅延証明書等)を提出すること。

#### 科 目 名: 臨床・臨地実習Ⅲ

<u>担当教員: ※菅野 亜紀、※永井 由美子、※多田 美穂子、※中田 悠、※江口 貴子、</u> ※有友たかね、※上島 文江、※高倉 枝理子、※岩澤菜々恵

#### 1. 教科の特徴

この教科では、臨床・臨地実習Ⅰ・Ⅱで学んだ知識、技能、態度を統合させ、より実践的能力を高め、口腔保健を担う専門職としての人々の素地を修得する。

(ディプロマポリシー 1・2・3・4)

#### ナンバリング 【B0703-3B】

2. 一般目標 (GIO: General Instructional Objective) 口腔保健を担う専門職として、人々の健康を支援できる歯科衛生士として求められる 実践的な知識、技能、態度を修得する。

- 3. 行動目標 (SBOs : Specific Behavioral Objectives)
  - 1) 口腔保健を担う専門職として必要な知識を身につける。(10%)
  - 2) 各実習先における歯科衛生士の役割を説明する。(10%)
  - 3) 専門的な歯科診療の補助のために必要な技能および態度を習得する。(30%)
  - 4) 多職種と協働する能力を身につける。(10%)
  - 5) 対象者を総合的に把握し問題点を列挙する。(20%)
  - 6) 患者やその家族とコニュニケーションを図る。(10%)
  - 7) 自己を客観的に評価し、自ら向上する態度を身につける。(10%) ※ 各実習先の行動目標は、実習前に各自で設定して診療科と調整する
- 4. 方略 (LS: Learning Strategy)

※ ローテーションの詳細については、実習前ガイダンスで説明する。

- 1) 受動的方法: 該当なし
- 2) 能動的方法: 臨床実習、ディスカッション
- 3)媒体:患者、利用者
- 5. 評価 (EV: Evaluation)
  - 1)形成的評価:

実習態度の観察記録 (20%)

2) 総括的評価:

口頭試問、実技試験、レポート、客観試験等で評価される。(80%)

#### 6. 事前学修·事後学修

実習前のガイダンスには必ず出席すること。ガイダンス時に実習の注意点や把握して おくべき事項の詳細が説明されるため、把握しておくこと。

#### 1) 事前学修

毎回:登院する各実習先の臨床実習必携を確認の上、実習前にその日の目標を立て て準備する。(15分)

#### 2) 事後学修

毎回:実習内容を振り返り、事前に立てた目標がどの程度達成できたかを客観的に評価し、改善点を考察する。(20分)

3) 事前学修・事後学修の評価

事前学修・事後学修:日々の実習記録の記載内容および最終日に記載する「科のまとめ」から評価する。

#### 7. 教科書

特になし	

#### 8. 参考図書

特になし	

#### 9. オフィスアワー

\*各実習先で異なるためガイダンスで確認すること。

#### 10. 出席について

- ・遅刻・早退は原則としてそれぞれ1回につき欠席0.5回と計算する。
- ・遅刻・早退となった当日の実習時間の3分の1以上が未履修の場合は、欠席とする。
- ・ただし、交通機関の乱れや災害等によるやむを得ない場合には、証明となる書類(遅 延証明書等)を提出すること。